

研究論文

授業評価の導入に関する実証的研究

森 均*

An Empirical Study on the Introduction of Teaching Evaluation

Hitoshi MORI

【要 約】

大阪府においては、2004（平成16）年から「教職員の評価・育成システム」が本格実施され、2006（平成18）年からは評価結果が昇給や賞与にも反映されている。他県においても大阪府において行われているような評価システムの導入が徐々に進んでいるが、管理職が教員を評価する場合、教員一人一人の授業を評価することは避けて通れない。

そこで、本論文では、管理職が初めて授業評価を導入する際の工夫について、実証的に述べている。

* 大阪府立たまがわ高等支援学校

1 目的

アメリカの大学で始まった学生による授業評価は我が国の大学においても行われるようになり⁽¹⁾、小・中学校や高等学校でも、教育委員会の指示や要望を受けて、取り組む学校が毎年増加傾向にある。しかし、学校現場においてはトップダウン的な政策への抵抗もあり、管理強化のためのものではないかとの批判もある⁽²⁾。このような状況のもと、大阪府においては教職員の評価・育成システムが導入され、管理職が教員の授業を評価する機会が増えているが、まだまだ評価する方も評価される方も不慣れである。

そこで管理職による授業評価(以下、授業評価と記す)の導入にあたって工夫した内容を、評価を受けた教員のアンケート結果から検証する。

2 仮説

授業評価の導入にあたって、自らの教員時代を振り返り次の仮説を考えた。

- (1) 評価を受ける授業はどの授業がいいか、教員から希望をとれば教員は安心して評価を受けることが出来るだろう。
- (2) 授業には、さまざまな形態があるので、授業のねらいや評価を受けたいところを事前に評価者に示すようにすれば、教員は安心して評価を受けることができるだろう。
- (3) 評価項目を事前に示せば、教員は安心して評価を受けることができるだろう。

3 対象と方法

(1) 対象

大阪府立だいせん聴覚高等支援学校における平成18年度の実践を対象とする。本校は平成18年4月1日付で大阪府立生野高等聾学校と大阪府立堺聾学校高等部を統合し、旧大阪府立白菊高校跡地に開校された。開校時、即ち平成18年4月1日現在、学級数20、生徒数86名、教職員数87名であった。

(2) 方法

仮説にしたがって資料1に示すように授業の日時を第3希望まで記載でき、それぞれ授業のねらいも記載できる希望表を作成した。資料2に示す授業評価表は、2005年度に大阪教育大学大学院実践学校教育講座の実践教育学特論においてグループワークで学んだ経験をもとに作成した⁽³⁾。資料3に示す事後アンケートは仮説を検証できること及び授業評価を受けた直後の教員ができるだけ簡単に回答できることを主眼に作成した。

これらを用いて授業評価を導入したが、授業評価を受けた教員31名全員から事後アンケートの提出があった。本稿ではこの事後アンケートの分析をもとに仮説の検証を行う。

4 結果

事後アンケートの各設問に対する回答数は次の各表に示すとおりである。

表1 Q1「授業はねらいどおりにできましたか？」

選 択 肢	人数
できた	10
どちらかというとできた	18
どちらかというとできなかった	3
できなかった	0
合 計	31

表2 Q2「安心して評価を受けることができましたか？」

選 択 肢	人数
できた	18
どちらかというとできた	13
どちらかというとできなかった	0
できなかった	0
合 計	31

表3 Q2で「できた」「どちらかというとできた」と答えた理由（複数回答可）

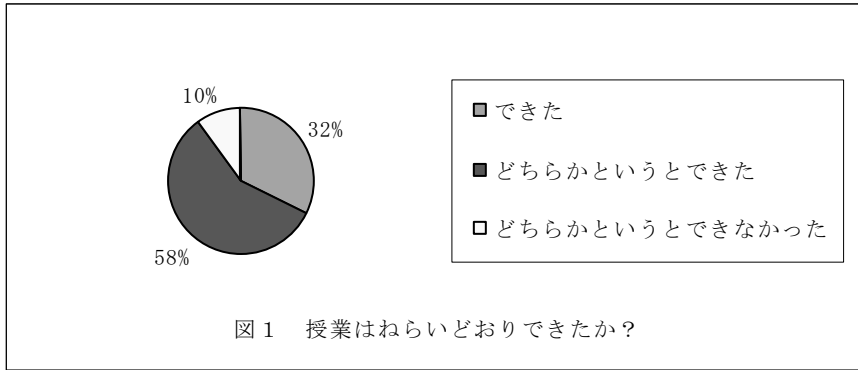
選 択 肢	総数
事前に、評価を受ける授業を希望できたから	25
事前に、授業のねらいや評価して欲しいところを提出できたから	18
事前に評価項目が公表されているから	4
その他	2
合 計	49

表4 Q4「授業終了後の面談の結果、該当するもの」（複数回答可）

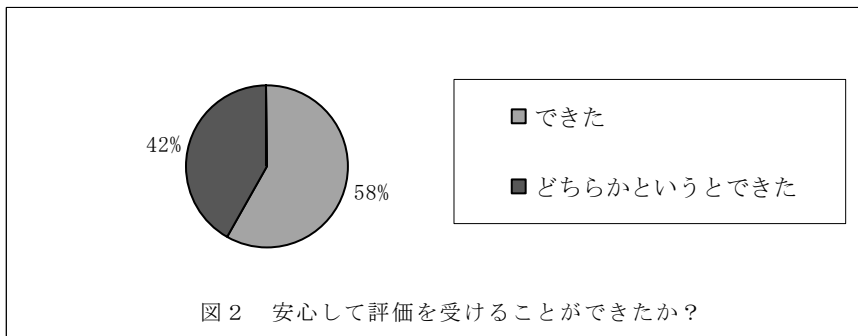
選 択 肢	総数
今回の授業でよかったところがわかった	13
工夫すべきところがわかった	16
次の授業の改善に生かせると思った	22
その他	1
合 計	52

5 分析

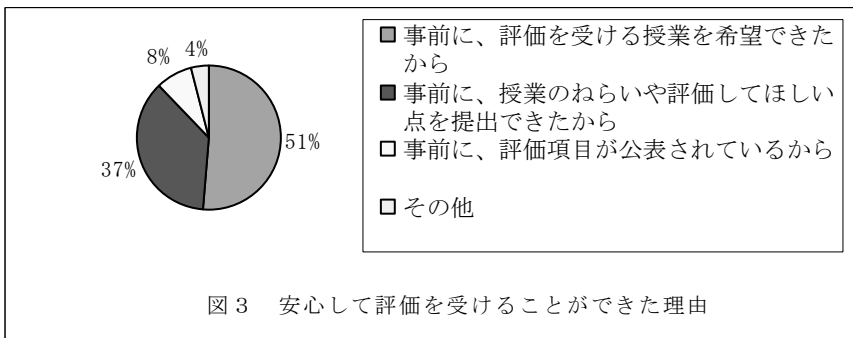
- (1) 表1の結果を図1に示す。32%の教員が「授業はねらいどおりできた」、58%の教員が「どちらかというときできた」と回答しており、「できなかった」という回答はなかった。



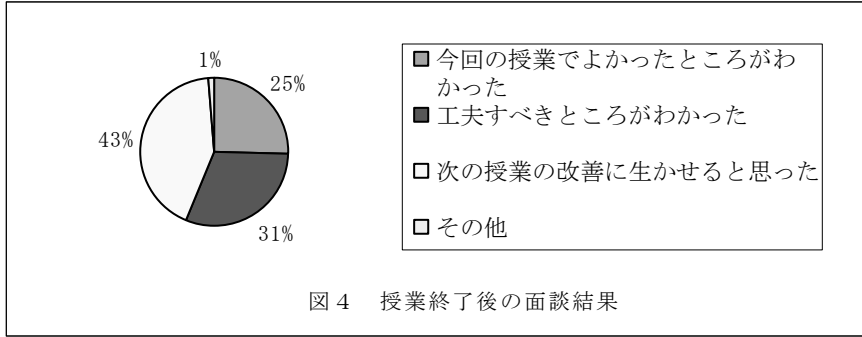
- (2) 表2の結果を図2に示す。58%の教員が「安心して評価を受けることができた」、48%の教員が「どちらかというときできた」と回答しており、「どちらかというときできなかった」「できなかった」という回答はいずれもなかった。



- (3) 表3の結果を図3に示す。安心して評価を受けることができた理由として回答総数のうち、51%が「事前に、評価を受ける授業を希望できたから」、37%が「事前に、授業のねらいや評価してほしい点を提出できたから」を挙げている。



- (4) 表4の結果を図4に示す。授業終了後の面談の結果については、回答総数の43%が「次の授業の改善に生かせると思った」、31%が「工夫すべきところがわかった」、25%が「今回の授業でよかったところがわかった」となっている。



6 考察

以上の結果から、問「安心して評価を受けることができたか？」に対して、全員が「できた」「どちらかというのできた」に回答しており、その理由として「事前に、評価を受ける授業を希望できた」が回答総数の51%、「事前に、授業のねらいや評価して欲しいところを提出できた」が37%を占めたことから、仮説(1)(2)については実証できたと考える。しかし、仮説(3)については、回答総数の8%にとどまっており、評価項目の公表は安心して評価を受けることに大きく影響していないことがわかった。

また、図4に示すように授業の終了直後に、単時間ではあるが面談を行うことが有効であることもわかった。

最後に自由記述欄に記述された内容を紹介する。

「やはり緊張しました。普段より声が出ていなかったように思います。隣の教室に負けていました。」

「自分自身の授業について、見直すきっかけになったことは良かったと思います。」

「授業後、何が良くて何が悪かったのか改めて反省することができた。また、評価表をみて、今後の課題が明確になった。」

「他人に授業をみてもらい、良かった点、工夫した方がよい点等のアドバイスをいただくことはとても勉強になるなと思いました。」

「ご指摘いただいたノートの転記の指導は今後も継続していきたいと思います。生徒一人ひとりのこだわりもあるので、時間がかかるかもしれませんが、根気強く一人ひとりに話をしていきます。本日はありがとうございました。」

これらのことから、授業評価が教員にとって振り返る機会になっていることがわかる。

これらの経験をもとに、次の赴任校である大阪府立茨木工科高校では、資料4に示すように教員が自らの授業の見学者を希望できる希望表をもとに、授業見学を導入した。このような形態をとったのは、教師集団に授業評価に対するアレルギーが強かったこと。また、校長

として、教員同士が授業を見せ合い、高め合う雰囲気を醸成したかったことによる。

この結果、2007（平成 19）年度には 11 名、2008（平成 20）年度には 14 名の教員が授業見学を自ら希望して実施した。

参考文献

- (1) 大阪教育大学スクールリーダー・プロジェクト、第 4 回スクール・フォーラム (SLF03) 授業評価の理論・政策・実践－授業改革のために－, 2004. 2
- (2) 大阪教育大学大学院教育学研究科実践学校教育講座, 実践教育学論集 2004－現代の教育問題を考える 09－, 2005. 3
- (3) 大橋正輝、金原祐子、中村吟子、森均、細川克寿「授業改善に向けた評価の工夫－小学校における授業評価シートの開発－」大阪教育大学大学院教育学研究科実践学校教育講座, 実践教育学論集 2005－現代の教育問題を考える 10－, pp31-36 2006. 3

資料1

授業見学希望表

名前 _____

希望順	月	日	曜日	時限	学 年	クラス	科 目 名	教室番号等備考
第1希望				限目				
	授業のねらい・評価して欲しいところ							
第2希望				限目				
	授業のねらい・評価して欲しいところ							
第3希望				限目				
	授業のねらい・評価して欲しいところ							

資料2

授 業 評 価 表

授業日	平成 年 月 日()第 時限目			名 前	
授 業	教科 _____	科目 _____	クラス	本 ・ 専	年 組

項 目	評 価	備 考
① 授業時間は、正しく守られている。	A B C	
② 授業開始時と終了時には、あいさつがなされている。	A B C	
③ 授業時に相応しい服装で、行われている。 ※ 授業時の安全（服装・配置物・等）は、適切に指導されている。	A B C	
④ 生徒の授業参加（質疑・発表・ノート転記・等）に配慮している。	A B C	
⑤ 生徒の学習意欲を喚起している。	A B C	
⑥ 授業の準備や工夫（配付物・掲示物・板書・等）が、なされている。	A B C	
⑦ 希望表に記入のあった、授業のねらい、評価して欲しかったところについて	A B C	
⑧ 希望表に記入のあった、授業のねらい、評価して欲しかったところについて	A B C	

A・・・よくできている。 B・・・概ねできている。 C・・・努力を要する。

気づいた点 （授業のねらい・評価して欲しいところを中心に） ・ ----- ・ ----- ・ ----- ・ ----- ・ ----- ・ ----- ・
--

総合評価	A B C	記入者	校長・教頭・首席・部主事

資料3

事後アンケート

___年___月___日

名前_____

(1) 授業はねらいどおりできましたか？いずれかに○印をつけてください。

- 1 できた
- 2 どちらかというとできた
- 3 どちらかというとできなかった
- 4 できなかった

(2) 安心して評価を受けることができましたか？いずれかに○印をつけてください。

- 1 できた
- 2 どちらかというとできた
- 3 どちらかというとできなかった
- 4 できなかった

(3) (2)で「できた」「どちらかというとできた」と答えた方は該当するものにすべて○印をつけてください。

- ・ 事前に、評価を受ける授業を希望できたから
- ・ 事前に、授業のねらいや評価してほしいところを提出できたから
- ・ 事前に、評価項目が公表されているから
- ・ その他（具体的に_____）

(4) 授業終了後の面談の結果、該当するものにすべて○印をつけてください。

- ・ 今回の授業でよかったところがわかった。
- ・ 工夫すべきところがわかった。
- ・ 次の授業の改善に生かせると思った。
- ・ その他（具体的に_____）

(5) 何かあればご記入ください。

ありがとうございました。

資料4

授業見学の希望表

名前 (_____) 所属 (_____) 系・科 _____

希望順	月	日	曜日	時限	学年	系	クラス	教科目名	実施教室等
第一希望				限目					
	授業のねらい								
第二希望				限目					
	授業のねらい								
第三希望				限目					
	授業のねらい								

次の質問に答えてください (該当する項目に○印をつけてください。複数回答可)。

- 誰に授業見学をしてもらいたいですか。見学者について次のどれかに○印をつけてください (複数可)。

a. 管理職をのぞき所属を問わず、誰でもよい	b. 系・教科内の教員
c. 首席	d. 系長
	e. 管理職
- 見学者は何名ぐらいが適当ですか。

a. 何名でもよい	b. 4～5	c. 2～3名	d. 1名
-----------	--------	---------	-------